

## 作家・横光利一を偲ぶ ●●●雪解のつどい●●●

昭和初期に活躍した伊賀市ゆかりの作家・横光利一<sup>よこみつりいち</sup>を偲び、3月9日に伊賀市中央公民館で「第10回雪解のつどい」を開催しました。

このつどいは、小学校から高校までを母の実家のある伊賀で過ごした利一の生誕100年を記念した第1回から毎年開催されていて今年で10回目を数えます。

龍谷大学教授の田口律男<sup>たぐちりつお</sup>さんが、修学旅行で大阪を訪れたことを書いた紀行文について、この作品は横光文学の起源であり、伊賀での生活が横光文学の養分になっていたと話されました。



ほかに、野村区の小学4年生から6年生の子どもたちが、利一の父の出身地・大分県宇佐市を訪問し長峰<sup>ながみね</sup>小学校の子どもたちと交流したことについての報告や、「夜の翅<sup>つばさ</sup>」の朗読が行われました。

この日、会場につどった約130人の来場者は、日本文学の最前線を走りぬけた偉大な作家を少し身近に感じることができたようでした。



## こころに響く歌声とメッセージ

### ●●●生涯学習市民講座「渡辺千賀子おはなしコンサート」●●●

3月9日、生涯学習市民講座として渡辺千賀子<sup>わたなべちかこ</sup>さんのおはなしコンサートをふるさと会館いがで行いました。

ソプラノ歌手として国内外で活躍されている渡辺さんは、年齢や性別に関係なく誰もが親しめる歌を通して、人権の大切さを伝えるべく、コンサートなどの活動を各地で行っています。



渡辺さんは自身の子ども時代に経験した中で感じた人権への思いを語り、オリジナルソングなど4曲を歌いました。また、会場の皆さんと一緒に手話を交え歌う場面もあり、参加者は渡辺さんの美しい歌声とメッセージからあたたかい気持ちを受け取ったことでしょう。



## 伊賀市は7位入賞！ ●●●うまし国三重市町対抗駅伝●●●



3月16日、県内各市町を代表する選手たちが県庁前（津市）をスタートし、県営総合競技場（伊勢市）までの10区間、42.195キロを競う「うまし国三重市町対抗駅伝」が行われました。

初開催となったこの駅伝には、県内すべての29市町が出場し、伊賀市からは監督・選手など21人が参加しました。沿道には、選手の保護者や公募者などで構成する応援団の忍者隊34人が応援にかけつけ、選手たちは思いを込めたタスキを胸に力走しました。

結果は市の部で7位入賞。監督は「上位を狙っていたので予定どおり。ハラハラしたけど選手は冷静に走ることができました。この経験を生かし、今後につなげてほしい」と、選手たちは「緊張したけどがんばって走れた」「幅跳びをしている子に負けて悔しかった。今度は勝てるようにがんばりたい」と話し、風をきって走った伊勢路の記憶を心に残しました。

